

ベ ス ト ピ ア  
*Bestopia*

「パリ通信 12号」

ベストピアは小原靖夫の  
個人誌です。

平成二十四年十二月  
第十二号

< 2012年12月 >

古賀 順子  
ストラスブールのクリスマス・マーケット

12月に入ると同時にフランス各地で初雪が降り、クリスマスが近いことを実感します。カトリックの国フランスでは、クリスマスは家族が一同に集まる大切な年中行事です。クリスマスの食事、プレゼント、ツリーの飾り付けなど、家族の絆を確認する楽しい時期です。クリスマス用品を求める人で賑わうこの季節、ストラスブールのクリスマス・マーケットには、フランスのみならず世界各地から多くの観光客が訪れます。

2007年6月TGV ESTが開通し、ストラスブールはとても近くなりました。パリ・ストラスブール間の距離は500km。以前は4時間かかっていましたが、TGV開通後2時間20分に短縮されました。ストラスブールの駅から大聖堂まで歩くことができ、車がなくても行けるのはとても便利です。今年は11月24日から12月31日までマーケットが出ます。歴史は古く、1570年から市が立ち、ヨーロッパでも最も古いクリスマス・マーケットです。昨年は東京にも出店、今年のホスト国は黒海に面したグルジア。グルジア式クリスマス・ツリーや食べ物が私たちの目には珍しいです。書籍のマーケットが並ぶクレペール広場には、高さ30mの大きなツリーが飾られています。大聖堂前にもたくさんの小屋が並び、ホット・ワインやソーセージを片手に、クリスマスにちなんだものを観てまわるだけでわくわくします。土日ともなれば日本の初詣のようで、子供連れの家族も多く、日本の縁日と変わらぬ風景です。私はミニチュアの家、アルザスの冬の風景を描いた小さなグラス、アルザスのシンボル「コウノトリ」

と民族衣装を刺繍した台所用フキンを買いました。レストランも大勢の客で賑わい、名物のシュークルット、ぱりぱりのピザを美味しく食べ、リースリング、ピノ・グリなどアルザスワインやビールに会話も盛り上がります。

15世紀グーテンベルグが活版印刷術を発明した街ストラスブールは、科学や宗教など中世から大学都市でもありました。そして16-17世紀ルネサンス期の家並みを今に残しているのが「プチット・フランス」と呼ばれる一角です。ユネスコの世界遺産にも登録されています。川の水を利用した職人たちの工房があった場所で、立派な木の梁がとても美しいです。「皮なめし職人の家」(Maison des tanneurs)は1572年の建物です。パリとはまったく違った文化で、人も家並みも食べるものもドイツに似ています。気温も低く、私たちが訪れたときは雪でした。風が冷たく、底冷えに震えながら食べた焼き栗やクレープは一段と美味しかったです。今回は暖かいお花の季節に、ストラスブールからコルマール、チュルクハイムやエギスハイムなど小さな村々を訪れてみたいと思います。

ストラスブールからパリに戻り、夕食前の散歩にシャンゼリゼ通りのイルミネーションを観に行きました。12月のパリは朝9時頃まで薄暗く、17時には陽が落ちます。凱旋門からコンコルド広場まで長く延びるクリスマスのイルミネーションは、パリらしい都会的で豪華な飾りです。天使の輪のような丸い電球が赤くなったり、青くなったりします。その上を小さな光がきらきらと流れます。寒い冬のパリも魅力的です。テレビ・ニュースによれば、一家族のクリスマス予算は300-400ユーロ。プレゼントは、チョコレート、本、おもちゃの順だそうです。皆さんもどうぞ良いクリスマスをお迎えください。Joyeux Noël !!